



自律的な防災まちづくり 「よこしろ防災チャレンジ」!!



福岡県北九州市横代校区市民防災会
防災・防犯委員長 平田 信一

1 はじめに

福岡県北九州市小倉南区は、南側にはカルスト台地で有名な平尾台、東側には曾根干潟など自然豊かな場所で、北側は住宅地が広がる市内で一番広い区です。自然が多いことから、合馬のたけのこ、大葉しゅんぎく、竹炭、一粒牡蠣など全国的に有名な特産物もたくさんあります。

なかでも「横代校区」は、豊かな自然に恵まれている一方で、九州縦貫道や北九州都市高速道路、JR線などの交通の利便もよく、住みやすさにも恵まれている環境が自慢です。

また、教育の面では北九州市で唯一の「1校区内に1小学校1中学校」の特徴を生かし、地域とともに小中一環連携教育にも取り組んでいます。

2 背景

横代校区が抱える災害リスクとして、最大震度6弱が想定される小倉東断層や、河川整備はされているものの、大雨や大型台風による河川氾濫が危惧される2本の川が流れています。

そんな中、東日本大震災や各地で頻発する大雨災害を目の当たりにし、行政に頼るだけではなく、自主的に地域防災力を向上させる必要があるとの思いから「よこしろ防災チャレンジ」に取り組むことにしました。

3 「よこしろ防災チャレンジ」の概要

「よこしろ防災チャレンジ」とは、私たち市民防災会と地元NPO法人や消防団、学校法人、行政機関などの関係団体が連携

して企画・運営・開催する体験型のイベントです。

具体的には、避難所体験や防災グッズ



よこしろ防災チャレンジ



よこしろ防災チャレンジ



よこしろ防災チャレンジ

の作成、まち歩きスタンプラリーなどを「チャレンジ事業」と名付け、それを通じて防災知識と技術を身につけることができます。

また、体験の主体は小・中学生ですが、住民も過去発生した災害の語り部として参加したり、自由に見学できるので、地域住民交流の場にもなっています。

プログラムの最後には、参加した地域住民や関係団体が小学校の体育館に集合し、「チャレンジ事業」の振り返りや日本各地で発生した過去の自然災害の教訓を共有する時間を設けています。

4 取組の課題と解決

「よこしろ防災チャレンジ」の取組を始める前に、この取組をどのようにして継続していくかが、課題としてあげられました。

この課題を解決するため、次の3点を解決の主眼として取組を進めました。

- ・自律的で継続的な活動にする。
- ・地元の関係団体と連携する。
- ・学習効果を高める体験型にする。

まず、自律的で継続的な活動にするため、運営側となる関係団体に、校区内の小中学校や消防団庁舎、市民センターなどを活用した「チャレンジ事業」を、それぞれで企画・運営をしてもらうことにしました。

次に、地元のNPO法人や消防団、学校法人、行政機関などの関係団体と連携するため、地域一体で取り組む必要性を説明に回りました。現在では32団体が賛同・参加してくれています。

最後に、避難所体験、応急手当、地域内の河川氾濫ポイントの確認などの「チャレンジ事業」は、誰でも自由に参加でき、興味を持ったブースを体験できる「テーマパーク方式」としました。

これにより主体性が生まれ、自律的な活動を継続することができています。

5 取組の成果

小学1年生から上級生とともに参加し、多くの住民や関係団体の大人たちと防災体験を共有することで、「自分の命は自分で守る」、「みんなの命はみんなで守る」という自助・共助の精神を幼少期から根付かせることができました。

また、最後のプログラムでの振り返りと過去の教訓を住民と多様な関係団体で共有することにより、さらに連携が強化され、総合的な地域防災力の向上につながっています。

さらには、運営スタッフとして参加していた大学生が社会人となり、再びスタッフとして参加してくれているという、想定外の嬉しい成果も上がっています。

6 おわりに

昨年度7回目を迎えた「よこしろ防災チャレンジ」は、今では「地域の年中行事」として、住民と関係団体に定着しています。

地域防災力の向上を目的に始めたこの取組は、「防災」をキーワードに繋がった関係ですが、「防災」の枠を超えた地域づくりや人づくりが、北九州市の目指すSDGsにつながっていると考えています。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、今年度の「防災チャレンジ」は中止を決定しましたが、来年度の開催の際には、さらに充実した内容になるように計画したいと思っています。

